

証券アナリスト

主催団体 公益社団法人 日本証券アナリスト協会
受験資格 協会が実施する通信講座(1次レベル・2次レベル)で学んだ後、それぞれ試験を受ける
目安となる取得期間 2年~3年

ニュース & TOPICS

経済や産業の動向などを把握し、証券分析やポートフォリオ(投資配分)の設計、投資価値を算出。投資の助言や投資運用のサービスを提供する専門家が証券アナリストだ。勤務先は証券会社や銀行などの金融機関のほか、企業の調査部に所属し、個別証券の分析・評価を行う専門職として従事するのが一般的。財務・IR部門にも活躍の場は広がっている。

どう学ぶ? 協会が実施する通信講座でじっくり学ぶ

協会が実施する通信講座を受講する。受講期間は、1次レベル・2次レベルともに8カ月。ほかに初歩・入門向けの「基礎講座」(常時受付)もある。合格までには、最短でも2年の勉強が必要だ。

どう稼ぐ? より専門化が進むなか、活躍の場は広がっている

金融機関等に所属するファンド・マネージャー、投資アドバイザー、マーケットアナリストなど、専門知識に特化した職種が増え、活躍の場は拡大。一般企業の財務、IR部門で働く人がある一方、評論家として活躍する人もいる。

金融が専門領域のエンジニアになるために証券アナリストをめざす

大学では工学部の電子工学科で学び、IT企業大手の伊藤忠テクノソリューションズ(CTC)にエンジニアとして就職した福永さん。畑違いの証券アナリストの資格を取得しようと決めたのは、新入社員研修を経て、金融システムの技術開発部門に配属されて3カ月ほど経った頃だった。「システム開発の部門で技術面に優れた力を発揮するのは当然のこと。なので、アプリケーションの開発業務に携わりながら、どうしてこのアプリケーションを作るのかという点に常に注意を払っていました」。そして行きたいのが「金融業界でリスク管理システムの開発をするなら、金融業務にできるだけ詳しくなって、お客様と同

「証券アナリスト」といいながら、証券だけに特化しているわけではなく、金融全般の知識を網羅。その知識は一般企業でも役立つ汎用性の高い資格

福永圭佑さん(31歳)



08年10月、検定会員に認定。伊藤忠テクノソリューションズ株式会社(CTC)で某銀行のリスク管理システムの開発を担当している。

取材・文/山村由紀 撮影/工藤朋子

じ目線、時代感覚でシステムに接することが肝要」という結論だった。

顧客の要望を把握し理論に基づいた提案力が身についた

証券アナリストの学習範囲は広い。確率・統計など基礎的な数学知識、金融商品の評価モデルなど、福永さんが担当しているシステムに直結する内容も多く含まれていたため、「これに役に立つ」と確信。翌年4月から

協会が主催する通信講座を受講することに決めた。勉強時間は、朝5時に起きてから出勤するまでと通勤電車の中、そして

ゼロから始めた金融関連の勉強で「使える」と実感したから金融に強いエンジニアになろうと決めました。

「使える」と実感したから金融に強いエンジニアになろうと決めました。



「協会が主催する講座やセミナーには、できるだけ積極的に参加しています」と福永さん。そこで得たホットな情報は、社内の仲間や後輩に伝えるなど精力的に活動している。

て昼休み。勉強を習慣化する一方、過去問題を解いてからテキストを読むやり方で、重要ポイントも頭に入りやすくなり効率的に学ぶことができた。「毎日勉強もしましたが、飲み会にもすっかり顔を出しました。合格はしたけど気が付いたら友だちがいなくなっていた、という状況は絶対避けたいかったですから」と笑う福永さんは、1次試験、2次試験と連続で合格し、見事、検定会員に認定された。「証券アナリストの勉強を通して金融全般の知識が広がり身につきました。おかげで周りの人とは違った視点でシステムやプログラムに当たれるようになったメリットは大きい。システムに強いだけでなく、きちんとした理論に基づいて説得力のある提案をすることができるようになりました」